



三次中央会報

ロータリークラブ

2018-2019 ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2710

事務所/広島県三次市十日市東 1-16-19
TEL (0824) 64-1245
FAX (0824) 64-1245
E-mail m-c-rc@vega.ocn.ne.jp
http://mrcr.server-shared.com

例会場/広島県三次市十日市南 1-5-5
グランラッセ三次2F

例会日/月曜日 12:30~13:30

会長/角谷俊典

幹事/栗本清秀

●2018~19年度 国際ロータリーのテーマ



インスピレーションになる

●2018~2019年度 三次中央RCスローガン

広げよう ロータリーの心
増やそう ロータリーの友

- 本日のプログラム ゲスト講演/国際奉仕委員会
地区ロータリー財団委員会
資金管理小委員長 小田大治様
- 次回例会日時 2018年11月12日(月) 12:30~
- 次回プログラム 会員卓話/プログラム委員会

■第1240回例会記録

- 日時.....2018年10月29日(月)12:30~
- 点鐘.....会長
- 国歌「君が代」斉唱.....全員
- ロータリーソング「我らの生業」.....全員

■開会挨拶.....角谷会長

身の回りのことは自分でしましょう



皆様、こんばんは。
今日の朝刊に介護職の
記事が載っていました。今、
日本全体が人手不足で困
惑しております。介護の人
手不足対策の一環として
経験のない中高年を呼び
込もうと厚労省が自治体に
要請している「入門的研

修」が低調で16都道府県のみであるとのこと。

入門的研修とは介護サービスの内容や認知症予
防に役立つ体操を学ぶ基本講座(3時間)と入浴
や食事といった生活支援の基本的な方法や認知症
の症状を理解する入門講座(18時間)で構成され
たものです。

この研修を受けた中高年らにはお年寄りの話し相
手や片付けなどの負担の軽い「介護助手」になって

もらうんだそうです。

また、人手不足ということで外国人労働者の受け
入れも次第に増えるでしょう。そうなると言葉や習慣
の違いからトラブルやストレスも余計に増すかもしれ
ません。

このように年をとっても安心して介護を受けられる
世の中は、ますます遠のいていくような気がします。

突然に身体的障害を負った場合は別として、特
に認知症予防には気を配りたいものです。

自分の身の回りのこと、例えば下着靴下が自分
で取り出せる、必要な持ち物は自分で用意できるな
ど一中高年としての生活の自立を考えましょう。奥
様が不在でもちゃんとできますか?

ちなみに当クラブの平均年齢は64才です。60才
以上の会員が73%を占めております。みなさん、他
人事ではなくなってきました。

★今後の予定

- *11/ 5 (月) 国際奉仕委員会ロータリー財団担当例会 理事役員会19:00* グランラッセ1
*11/12 (月) プログラム委員会担当 会員卓話
*11/19 (月) 職場例会 「森のポック」視察 (例会セレモニーは三次ファイナリー)

■幹事報告.....栗本幹事

- 次週11月5日午後7時より第5回理事役員会をグランラッセで開催いたします。
- 11月のロータリーレートは1ドル112円です。
- 第29回三次市民復興記念花火祭りのお礼状が来ていますので回覧いたします。
- とんねるずの木梨憲武展の案内を回覧いたします。

■出席報告.....水野委員長

- 第1238回 10月15日

会員数	41名	Make-up	2名
欠席	7名	出席合計	36名
欠席者の未定出席	1名	出席率	90.00%

- Make-up...石田君、小根森君、松本君、中島諭君
- 第1240回 本日の出席は41名中32名です。

■ゴルフ同好会.....上田会長

忘年杯を11月28日(水)に行います。日程調整をよろしくお願ひします。

■SAA.....大井SAA

- 会員誕生日...堀川君



- 会員ニコニコBOXご出宝

ニコニコBOX本日出宝額 20,000円

本日は、堀川会員に「がん予防対策」についてお話しをしていただきます。2016～2017年度でも、ストレスによってがんになる。また、免疫とがんは繋がっている。という内容のお話しをしていただきました。未病専門医を自負しておいで先生に、きょうはどんなお話しが伺えるのか。それでは先生よろしくお願ひ致します。

中重俊二社会奉仕委員長

三次中央ロータリークラブが取り組むがん予防対策Ver.2

血小板凝集能検査の重要性

堀川 正城



今日は、このような機会を与えていただきありがとうございます。

2年前と本質的には変わってないけど、2年間の間にひらめいたものもありますので、きょうはそれらの事も付け加えながらお話ししたいと思います。

私の考えは、今話題のオブジーボとは対極の発想です。がんになってから高い薬を使うのではなく、がんは予防できるという事に確信を持って来ました。

がん検診を受ける100人のうち、97人が正常です。3人の人が悩んだりする事等により発症すると思います。この3人はどういう形でがんが進んで行くのかという血の巡りが悪いということが関係しています。私は、血の巡りについて研究しています。これは血液検査でわかります。また、免疫力ということが大事です。

例えば、ピロリ菌ですが、かつて井戸水を飲んでいた人には、ほとんど胃の中にピロリ菌がいます。ところがみんなが、胃がんを発症する訳ではありません。免疫力によって発症しないのです。ガンになる要因には、生活習慣病、低体温、高血糖値などの因子が考えられますが、共通するのは、がん免疫力の低下です。

私は血小板凝集能検査の重要性を唱えています。この検査をしないと何も始まりません。これをする事で、見えなかったものがたくさん見えて来る。今後、予防医学上、重要かつ中心的な検査になると思います。

血小板凝集能検査は未だ発展途上でありますが、おそらく近い将来、重要性が理解されると思

ます。西洋医学と東洋医学とが融合するイメージです。今後、予防医学上、重要かつ中心的な検査になるでしょう。

がん予防には、身体の面においても重要な事がたくさんありますが、性格の面についてもそれはあります。性格にも微妙なバランスがあります。微妙な性格のバランスをうまくコントロールしてくれているところが、感情・情動の中核と言われている「扁桃体」です。

したがって、扁桃体で血小板血栓ができて扁桃体の血流障害が起これば感情・情動のコントロールが不安定となり、ひいては性格にも微妙に影響してきます。

人は皆、日常いろんな状況下で、いろんな感情表現をし、いろんな情動反応を繰り返し、それらが皆混然とした中で精神的な安定性を保とうとしています。破綻すればたちまち「心の病」となります。

では、がんを予防するにはどのような気持ちでいれればいいかというと、

- 感謝する気持ち
- 社会貢献する気持ち
- 人の幸せを願う気持ち などです。

その事において、ロータリークラブは4つのテストを初め、色々な奉仕活動の中でまさにこれらを実践し、人間として上の段階を目指している素晴らしいクラブであると思っています。

本日は貴重なお時間をいただき、本当にありがとうございました。

箕田会員のおっしゃった、『おはぎ』の歌について、情報をいただきました。

その一、歌の最後に入る文句について箕田会員が思い出してくれました。応接間、座敷、etc. まあ、何でもいいのだそうです。お好きな場所をどうぞということでした。

その二、この歌のメロディー、『ゴンベさんの赤ちゃんが……』だそうです。ところがこのメロディーの発祥の地はアメリカとの情報が豊島事務局員からありました。うん？いったい、このメロディー、いつ日本に入ってきたのでしょうか？元の曲の名は？(南北戦争時代のアメリカ民謡「リバブリック賛歌」でした。日本に入ったのは明治時代、1890年頃、クリスマスに子どもの讃美歌として歌われていたそうです。)

その三、添付していた写真、ハデ干し、と思って写して来ましたが、ナントそこに穂はついて無いそうで、藁を干してる光景だそうです。竹野会員よりの情報でした。

今週の例会の席は、竹野会員、沈会員、箕田会員、鈴木会員、そして私。四方山の、『はしかおとし』で盛り上がった後、酒屋町の「火打坂」の話になりました。江戸時代、十日市から植松を通して船所へ抜ける道は雲石街道といわれていました。この船所側が火打坂と謂います。「あの坂にかかる頃には、日が暮れて火打石で火を点けるから火打坂って言うんでしょ」私の言葉に、箕田会員が、『火打石がとれるから、火打坂』とすかさず。竹野会員が『それを、おがらに移すんよ。よく燃える。おがらって知ってる?』『知ってまへす。おじいちゃんが大工だったから、よく知ってる』『いやいや、それはおがらず、おがら!』皆さん、ご存知ですか？

おがらの元は、麻。皮は繊維として織物や麻ひもとして使われ、残った芯がおがら。かつて日本ではたくさんの麻が生活の必需品として栽培されていました。では、麻からどうやって繊維を採るか？ここで箕田会員の登場!麻尾釜(写真)という特別な釜に麻を入れ、囲っている周りの石を焼き、それに水を掛けて蒸気で麻を蒸し、柔らかくなったところで皮を剥く。作業中は、大麻の匂いで、ふわ〜つとなったとのこと。(箕田会員談)この釜を見に船所に行つて来ました。現在は、草に覆われ、一部土に埋まっています。この釜、実に合理的な場所にあります。蒸気を出す為に水が沢山必要、そこで川のそば。しかもこの川は、江戸時代の雲石街道を横切る川。(今でも大きな音を立てて流れていました。)しかも、今は使われてなくても昔のメイン街道でしたから川のすぐ側と謂えども開けている。釜を置くにはぴったりの場所。箕田さんが小学校の頃(s30年頃まで?)にはこの釜で作業していたそうです。その後、麻の栽培は禁止になりました。それに代わってこの地で始まったのが、葉タバコの栽培です。でも葉タバコも今では栽培されていません。時代の需要は変わりましたが、雲石街道を横切って流れる川の音はきょうも変わらず………しんみり。



▲麻尾釜の跡と箕田さん



◀釜跡の拡大。かつては、石がぐるりとあった(今は一部土に埋もれている)。その上に銅の釜をかけ、すぐ下にある川(この川は雲石街道を横切る)から水を汲み、石に掛けて水蒸気を出し、麻を蒸し、茎を柔らかくしていた。



◀茅葺き屋根の裏にもおがらは使われた。